

平成31年(令和元年)度 鵬(Phoenix)プラン ～仙台高校のキャリアプラン～

1、「鵬(Phoenix)プラン」について

今日、少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進む中、就職・進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。また、教育を取り巻く環境も大きく変化しており、これら社会と教育の動向から若者をめぐる様々な課題が浮かび上がっている。一方、若者の勤労観、職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さなどについても各方面から指摘されている。このような中で、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、今後それぞれが直面する様々な課題に柔軟にかつ逞しく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるようにする教育の推進が強く求められている。

仙台高校の「キャリアプラン」は、様々な社会的な分野との接点を持つ中で、具体的な社会像、将来像をイメージし、「社会の中で何ができるか、という志」を見出し、生き方や進路決定につなげて行くものである。また、教科学習とも関連付け、学ぶ意義を感じ、学力の向上にもつなげて行くことを目的とし、平成21年度から始まった。それまでの「総合的な学習(探究)の時間」を含めた行事をキャリア教育の視点で紡ぎ直し、系統性を持たせ、修正、新設を行い、各部署が連携した「キャリア教育」を行うもので、仙台市の「自分づくり教育」の取り組みにも合致しているものである。

2、「鵬(Phoenix)プラン」の目的

現代社会を理解する力を育てるとともに、自分の能力や適性、興味関心、社会の中で何ができるかという志を理解することで、学ぶ意欲を喚起し、意思決定能力や学力の向上につなげて行く。

3、実施する活動

(1) 自己理解とコンセンサスプログラム(担当:進路指導部)

1年次始めに「レディネステスト」(進路アドバイス)を実施し、自分の興味関心の指向性の理解を深める。

将来的にはコミュニケーションの必要性を理解するため、「コンセンサスゲーム」や「起業体験」など、お互いの「価値観」を承認し、新たな案を提案するコンセンサスに有効なコーチングスキル等を学ぶプログラムを実施したい。

(2) ボランティア学習(担当:生徒指導部、総務部)

ホームルーム(学年)単位の体験学習を通し、様々な視点に基づいて現象を考えられる人間関係を養う。2学年において社会奉仕を考える活動を行う。また、生徒会が主体になった特別支援学校との交流会を実施する。

文化祭前後には3年間のローテーション(ボランティア学習・環境教育・国際理解教育)で講演会を開催し、同時に文化祭での展示発表を通して、啓蒙活動を行う。

(3) 環境教育(担当:環境・国際理解教育部)

生徒の環境委員会を核に、ゴミ分別学習(保健部)や環境問題学習など日常的な活動を行う。文化祭前には3年間のローテーション(前述)で講演会を開催し、同時に文化祭での展示発表を通して、啓蒙活動を行う。

(4) 保健学習(担当:保健部)

1年次では「デートDV」、2年次では「性について」、3年次では「薬物乱用防止」について講演会を実施する。また、保健委員会（生徒）を中心に、保健だよりや保健室前の展示を通し、健康促進に関する啓蒙活動を行う。カウンセラー講話を1年次に実施する。

(5) 国際理解学習（担当：環境・国際理解教育部）

国際理解のための交流会（ホームルーム単位）を1、2年次で実施する。また、文化祭前後には3年間のローテーション（前述）で講演会を開催し、同時に文化祭での展示発表を通して、啓蒙活動を行う。また、模擬店の収益の一部を寄付する。

(6) 情報学習（担当：図書・マルチメディア部）

膨大な情報量の中で正しい情報を選択し利用する力を育てる。また、プレゼンテーション能力（とくに、1年次のPhoenixゼミ、2年次のホームルーム研修旅行での発表）を育てる。

(7) 読書・小論文学習（担当：図書・マルチメディア部）

読書、小論文学習を通じ、現代社会を多面から捉え、それに対して意見を述べられる力を養う。週1日の朝読書（学年ごとにプリント作成、文面は教員が持ち回りで担当）と、1年次（演習2、講演会1）、2年次（演習2、ガイダンス1）、3年次（演習2、小論文模試1、講演会1）の小論文指導を行う。

また、1年次の後半から2年次前半にかけて各分野のレポート学習を行う。企画運営は国語科や学年、進路指導部と協力して行う。3年次のAO入試・推薦入試対策については、小論文模試を含めて進路指導部が中心となって立案する。

1年次4月にホームルーム単位で「図書館オリエンテーション」を行う。

(8) 研究調査学習（担当：1年次、2年次）

①Phoenixゼミ - テーマ別学習（1年次）

興味のある分野を20程度の講座から選び、テーマ別学習を行う。1講座あたり生徒20人以下を原則とし、担当教員の興味関心のある分野に関連した講座を設ける。担当は1学年教員全員と他学年副担任からの希望者とし、時期は6月の説明会（ガイダンス）からスタートし、概ね1月までを目安とする。11月に「スペシャルデイ」を1日設定し、フィールドワークを行う。「環境問題」、「福祉」、「社会体育など生涯教育」、「自然科学」など多方面の分野を含めた学習を実施。自分から調べる行為、情報収集の方法、現代社会の分析などを行う。1月に研究発表会を行う。また、外部への発表として次年度9月の文化祭で展示発表する。

②ホームルーム研修旅行（2年次）

クラス毎に学習内容や目的地を決定し研修旅行（3泊4日）を実施する。フィールドワークも含めた学習を実施。自分から調べる行為、情報収集の方法、他の地域社会の分析などを、従来の研修旅行の中で行う。1月に研究発表会を行う。また、外部への発表として次年度9月の文化祭で展示発表する。また、旅行計画書の作成、業者への説明、入札、落札の過程も、旅行委員会（ホームルーム委員会）を中心に学習する。

(9) キャリアプラン学習（担当：進路指導部、総務部、教務部）

①職業学習（進路指導部、総務部）

1年次では、レディネステストの結果分析とともに、職業ガイダンスを夏季休業前に実施。夏季休業中に、興味のある職業についてのレポート作成を行う。さらに、PTAまたは同窓会の協力のもと、ホームルーム単位の職業学習を3月に実施する。

②進路ガイダンス、大学模擬授業、将来を見つめる（進路指導部、図書・マルチメディア部）

1 学年冬期休業明けに学年全体でガイダンス(テレメール・夢ナビによるアンケートを活用)、3月には学問系統別ガイダンスを実施する。その延長として、2 学年4月には大学模擬授業を実施する。以上3ガイダンスで学問についての興味関心の発見と探究心の育成を行う。

科目選択前の2 年5月に全体で進路ガイダンスを行う。また、1 2月にも具体的な進路実現のための進路別ガイダンスを行う。

2 年次で実施する「将来を見つめる」では、1 年間を通して数回に分けて、自らが目指す学問や志望校に向けた志望理由書を作成する。添削指導を受けながら繰り返し書くことで、進路に向けた取り組みに留まらず、自己の適性についても客観的に見つめる機会とする。

3 年6月には進路講話を行い、県高校総体後の目標設定・再確認の契機とする。また、「研究レポート」については、4月に全体会、5～7月の3度の分科会を経て、進路目標分野のテーマを設定し、夏季休業期間中にレポートを完成させる。なお、推薦AO入試希望者には、夏季休業中より個別に小論文添削も並行して実施する。さらに、9月には2 回目の進路講話を行い、文化祭明けおよび後期へ向けての取り組みの再確認を行う。

また、2 年次で実施する「将来を見つめる」では、社会に出るに当たっての必要な知識の一つであるマネープラン(金融・消費)に関する講話も行う。

③科目選択説明会(教務部)

1、2 年次では次年度の「科目選択説明会」、3 年次では「後期科目選択説明会」を行う。

④オープンキャンパスの参加(進路指導部)

2 年次の夏期休業中に、希望進路先のオープンキャンパスに参加し、上級学校の学部学科への理解を深めるため、レポートを作成する。

⑤スタディーサポート(進路指導部)

自己の生活の振り返りと、学習状況の調査を行い、今後の高校生活の送り方を考える。1 年次では4月、8月、3月(2 学年第1 回分)、2 年次では8月、3月(3 学年第1 回分)に実施する。

⑥卒業生体験談(進路指導部)

大学の学部学科での研究内容の紹介、受験勉強等について卒業生から体験談を聞く。1 年次3月には卒業したばかりの卒業生から、高校生活の送り方や受験勉強の体験談を聞き、学問系統別ガイダンスと同日に実施する。2 年次の3月には、全体会と分科会に分け、大学3、4 年生を中心に研究内容や大学等の生活の紹介を聞く。

(10) 生徒自治活動(担当: 生徒指導部)

①生徒会活動

「文化祭」、「体育祭」の行事だけでなく、「生徒大会」、「各種委員会」、「ロングホームルーム」、「部活動」などに関わり、自治活動のあり方を学ぶ。また、基本的な生活習慣の確立を自発的に行うことができる集団に育つ企画を行う。

②部活動

学業とともに部活動でも上位レベルを目指す生徒を確保し、日々の部活動を通し、努力を継続する力とコミュニケーションスキル、学業と両立させるための根気や、他者への感謝などを学ぶ。

(11) 交通安全学習(担当: 生徒指導部)

交通社会のあり方を命の尊さに関連づけて捉える力を、体験研修、事件事例研修、講演会を通して総合的に養う。

(12) 芸術鑑賞 (担当：図書・マルチメディア部)

音楽・古典芸能・演劇に関する芸術鑑賞を通し、人間の奥行きや生き方を考える契機とする。

(13) 主権者教育

選挙権が18歳以上となったことや、今後成人年齢が18歳になることを踏まえて、主権者教育の一環として、外部講師を招聘して実施する模擬投票や、租税講話を通して、社会の一員としての自覚を促し「自立した18歳」の育成につなげていく。

4、総合的な学習（探究）の時間（Phoenix-time）の扱い

全員（全校、学年）参加の「鵬（フェニックス）プラン」は、「総合的な学習（探究）の時間」の内容として扱う。また、「仙台市自分づくり教育」でのキャリア教育の一環としても位置づける。

時間割は水曜6校時（および、3年次前期の金曜7校時）を「P-time」、7校時を「LHR（ロングホームルーム）」に設定する。「LHRテーマ決め」、「進路希望調査」はLHR時間に組み込まず、SHR（ショートホームルーム）等で行う。

「総合的な学習（探究）の時間」は、各学年1単位として扱う。LHRは履修単位としては扱わないが、時間割に入れることが義務づけられている現在の指導要領ではカリキュラム上、「キャリアプラン」を、「総合的な学習（探究）の時間」「LHR」両方の時間を利用して行っているという解釈になる。

平成31年度入学生からは、令和4年度から実施される新学習指導要領が定める「総合的な探究の時間」が先行実施となる。平成31年度（令和元年度）は2、3年生が「総合的な学習の時間」として、1年生は「総合的な探究の時間」を実施する。本校では、従来から「総合的な学習（探究）の時間」のプログラムの中で調査研究を行うものを実施してきたが、探究活動を深めるために各行事を精査していく。

5、「鵬（Phoenix）プラン」の運営と企画立案

「鵬（Phoenix）プラン」は「総合的な学習（探究）の時間推進委員会」が中心となり、各部署とともに企画立案、運営する。

総合的な学習（探究）の時間推進委員会は、教頭、主幹教諭、総務部長、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長、図書・マルチメディア部長、保健部長、環境・国際理解部長、企画研究部長、各学年主任の13名とする。

次年度案については、進路指導部長が予定案作成の作業を行い、11月頃までに関係部署で検証を行い、それを受けて12月職員会議には大筋を決定し行事予定に組み込む。その後、各行事の確認を経て3月職員会議にて正式決定する。